

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	15 / 2000 / 37-39
タイトル	平成11年度『せせらぎウォッチング』始末記
著者名	坂本瀧夫

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

平成11年度『せせらぎウォッチング』始末記

初代 坂本 瀧夫 (青森県陸水生物研究会)

プロローグ

今年度の「せせらぎウォッチング」は、川内町教育委員会の要請を受けての“川内川”の予備調査から始まった。

坂本、五十嵐、蝦名の3名で脇野沢に一泊するつもりで出発したが、宿が満杯で最後に川内町の「湯ノ川観光ホテル」に…風呂なしでもいい…ということによってようやく泊まることができたが、今年の活動の多難さを思わせるものがあった。

少し寒かったので早めに休み、翌日は「濃々園」のすぐ下の流れで採集を試みた。タバはあまり気にならなかったが、カジカガエルの卵塊がそこかしこに見受けられた。

「川内川」では、シロウオの稚魚も採取されたが、あのようにこぶし大からあたま大以上の石がごろごろしているところだからいい産卵場所になっているのかも知れない。

○カゲロウ類の多かった…内真部川 (青森市中央市民センター子供生物調査隊)

5月30日、川の水は昨年よりはきれいであったが、水は14℃で冷たかった。毎年みられるヘビトンボ、ブユ、ウズムシがみられないのは気温が高いせいだろうか。

○形が小さく同定に苦労した…野辺地川 (野辺地町キャンディキッズ)

6月12日、雪解け水のせいか、気温の割には水温が低かった。シロウオの卵を相当数採集し、室内で観察の途中で孵化して大騒ぎになった。

○ヘビトンボが大人気の…川内川 (川内第二小学校)

6月19日午前、川岸の護岸がとても頑丈で、川まで降りるのに苦労したが、学校でロープを張ったり、教師が手を引いたりしてくれた。川底は岩盤だった。

○ヘビトンボは孫太郎虫である…川内川 (川内わんぱくキッズ)

6月19日午後、齢を重ねると一日2カ所というのはとても辛い。午前中の調査地点からは1kmほど下流になるのか、川底は岩盤状から通常のものになっている。ここでも護岸は頑丈で下りるのに苦労する。

○検体は小さいがカゲロウ類に驚く子供たち…奥入瀬川(十和田市立下切田小学校)

7月13日、ここの子供たちは今回で6年間も継続している。雨上がりだったが、思ったより増水しておらず水温はやや低かった。調査地点は学校から近いが交通量が多いから車でなければ移動できない。ここでは初めてのヒルを採集した。

○ヒラタカゲロウが多かった・・・鳶川（十和田湖町立奥入瀬小学校）

7月16日、2年間奥入瀬川本流の調査を続けたが、学区内にある上流のこの川を比較のために調べることになった。青森は小雨模様であったがなんとか採集はできた。同定は焼山のホテルのバルコニー風のところを借用した。午前中からきて河原遊びをしたあとは、子供たちでもやっぱり疲労が大きかった。ゆっくり調べたいところであった。

○バラエティーに飛んだ環境・・・脇野沢川・細間沢（脇野沢公民館わんぱくキッズ）

7月24日、下北汽船での往復、その間の時間で行事をこなすのはやっぱり相当無理がある。次回からは、採集を済ませて置いてほしいものだ。川内川に比べ規模が小さく、海が近いなど、面白い環境で精査したいところだ。

○固定資料の同定を初めて試みる・・・奥入瀬川（十和田市おいらせ友の会）

7月31日、いかだ遊びなどイベントの一環として行われた採集で、その同定を依頼されたが、どの辺で採集したものか、もっと詳しい場所を連絡してほしいかった。

○サワガニを採取した・・・寺下川（階上町太陽子供会）

8月7日、昨年まで河川公園で実施していたが、今回は寺下観音の境内に会場を移した。住職が環境に関心があり、同定結果を掲示板で紹介するという。また境内にはヒメボタルも生息しているという。石の陰にサワガニがたくさん潜んでいた。こんなところは現地で採集にゆっくり時間をかけたいもの。

○トワダカワゲラが採取された・・・入内川（青森市野沢小学校入内分校）

8月27日、全校行事で3年目になったので、かなり慣れた作業ぶりである。全体が家族的で低学年の面倒見もいいし、時代がタイムスリップしたみたいで心が和む。もっと広範囲に調査したいところだ。

○ウズムシからサカマキガイまでの環境・・・熊原川（三戸町立三戸小学校）

8月28日、朝5時30分出発は、かなり辛いところがある。それに3人で百名近くの生徒を相手にするとはこれまで例がなかったことで、はたしてこの種の事業として成り立つものなのか。それでも、人数が多いということは採集する種の数が多くかることにもつながるようだ。やっぱり、一人で20人くらいが限度ではないか。指示が徹底しないし、危険この上ない。

○ここがかつてのカワゲラ類の宝庫か

・・・合子沢（青森市中央公民館 親と子のせせらぎウォッチング）

8月29日、小雨模様、やはり上流の樹木が伐採されると、生息する生物の種類も数も大きく減少する。かつてのカワゲラ類の宝庫も今は激減してしまった。どこでも車で移動できることは果たしていいことだろうか。

○ヒゲナガカワトビケラを食べる話にびっくり・・・笹内川（岩崎村立岩崎小学校）

10月4日、9月中に実施する予定が雨のため延び延びになっていたがやっと実施できる。川は公園風に化粧直しをしていた。これまでして土木事業をしなければならぬのか。自治体はそのツケをいつまで引きずることになるのか。これまででも十分きれいな河原なのに、大きい石を岸に敷き詰めている。どんな影響や効果があるのだろうか。小雨をついてまあまあの採取ができた。岩手放送が『奥羽の森に抱かれて』北東北の環境ネットワーク」の取材をしていて、川の一連の作業も取り上げたようだ。

○カゲロウの模様はとてもきれいだ・・・川内川（川内町公民館子どもキッズ）

10月30日、この地点は、6月に初回の調査をし2度目である。小学校の学芸会があるというので、子供たちの出席は少なかったが、老人クラブのメンバーがかなり参加していた。風があったので、気温ほどには暖かくなかった。先日の低気圧の風雨で河の石がひっくりかえり、今まで流れのなかったところも水があつたり、とまどいがあった。

予想していたよりも種や数が少なかったが、老人が多かったのでむしろよかったかも知れない。老人クラブの面々は実顕顕微鏡を覗いたことがないらしく、カゲロウの斑紋や頭部の形などのきれいさに驚いていた。

エピローグ

今年度の『せせらぎウォッチング』もようやく終了した。例年になく、早朝出発も多かったし、予備調査もいつもよりはかなりやった。

前半では、寒暖の差が激しかったし、後半は猛暑に悩まされたり、終了近くには天気のことばかり心配していた。

標本による同定もあり、人数の多さに圧倒された調査もあつたり、まだまだ現役引退をさせてくれないようだ。

グダリ沼の生物や“リバーランドおきだて”の調査、トンボのまとめなどいろいろと欲張りなことを考えての1年だったような気がするが、まあこれでいいのかなあ……